

薬理学実習 I

責任者名：小林 真之

学期：後期

対象学年：3年

授業形式等：実習

◆担当教員

10月25日5~7限の生理学実習(2)の担当教員は生理学の坪井美行先生、林良憲先生、人見涼露先生です。

11月1日5~6限の生理学実習(3)の担当教員は生理学の坪井美行先生、林良憲先生、人見涼露先生です。

小林 真之(薬理学 教授)

山本 清文(薬理学 専任講師)

大橋 一徳(薬理学 助教)

中谷 有香(薬理学 助教)

越川 憲明(特任教授)

篠田 雅路(生理学 教授)

坪井 美行(生理学 専任講師)

林 良憲(生理学 准教授)

人見 涼露(生理学 専任講師)

津田 啓方(生化学 准教授)

◆一般目標 (GIO)

薬理学各論で学んだ薬物の作用についての知識を深め、より強固にするために、直接観察し自ら実験にたずさわることによって、講義で得た知識と実際に目の前で生じる現象を結びつけ、薬物を運用する能力を身につける。

◆到達目標 (SBOs)

- 1) 平滑筋を題材として、薬物の受容体を介した作用メカニズムを説明できる。
- 2) 細胞のシグナル伝達研究法について説明できる。
- 3) 神経、内分泌、外分泌、循環器、運動器の機能発現機構を説明できる。
- 4) 自ら得た実験結果について、既存の知識と比較して解釈し批評できる。

◆評価方法

薬理学講座担当分 60%、生化学講座担当分 20%、生理学講座担当分 20%の割合で平常試験(実習分)に基づき評価する。平常試験後、解説を行いフィードバックを行う。実習報告書が未提出の場合は減点する。

【対面 平常試験(薬理学)】10月13日(月)9:00-9:50と12月13日(月)13:00-13:50の2回を対面にて試験を行う(予定)。

【遠隔 平常試験(生化学①)】10月25日に行う講義内容について講義終了後に平常試験を行う。

【対面 平常試験(生化学②)】平常試験(生化学②)は10月27日(木)9:00~9:50に対面にて行う(予定)。

*各平常試験生化学①、②の配点割合は、生化学①が20%、生化学②が80%で計100%→これを20%換算して、薬理学実習Iの生化学担当分の配点とする。

【対面 平常試験（生理学）】12月13日（月）13:00-13:50 に薬理学と合同で試験を行う。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
小林 真之	随時メールにて対応	deya20263@g.nihon-u.ac.jp	
山本 清文	随時メールにて対応	deya20263@g.nihon-u.ac.jp	
大橋 一徳	随時メールにて対応	deya20263@g.nihon-u.ac.jp	
中谷 有香	随時メールにて対応	deya20263@g.nihon-u.ac.jp	

◆授業の方法

薬理学総論に関連する事項の実験の様子を撮影し、動画配信することで臨場感を持たせた模擬実習を行う。また、授業内容の理解度の確認のために平常試験を行う。動物を用いた実習、コンピューターを用いたシミュレーション実習を通して、経験と知識をリンクさせる。

【実務経験】

小林真之

神経科学分野における研究経験を生かして、薬理学のみならずその周辺にある生理学、解剖学、生化学など他の基礎医学分野の知識と結びつけて、薬物の作用メカニズムを解説します。また、麻酔科や口腔外科など臨床で用いられる薬物の説明に関しては、歯科医師として臨床家の視点に立って講義します。

◆アクティブ・ラーニング

実習書にある学習課題に対する解答を作成してから実習に臨み、解説講義にて復習を行うこと。

◆教材（教科書、参考図書、プリント等）

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
	プリント			
教科書 1	現代薬理学 第6版	大谷啓一ら	医歯薬出版	2018
教科書 2	基礎歯科生理学 第7版	岩田幸一ら	医歯薬出版	2020
教科書 3	薬理学実習書	日本大学歯学部薬理学講座	蓼科印刷	2020

教科書 4	薬理学実習ノート	日本大学歯学部薬理学講座	蓼科印刷	2020
参考書	New 薬理学 改訂第6版	田中 千賀子, 加藤 隆一	南江堂	2011
参考書	標準生理学 改訂第9版	本間研一 監修	医学書院	2019
参考書	スタンダード生化学・口腔生化学 第3版	池尾隆ら	学建書院	2016
参考書	はじめの一步の生化学・分子生物学 第3版	前野正夫、磯川桂太郎	羊土社	2016

◆DP・CP

DP 1

コンピテンス：豊かな知識・教養に基づく高い倫理観

コンピテンシー：医の尊厳を理解し、法と倫理に基づいた医療を実践するために必要な豊かな教養と歯科医学の知識を修得できる。

DP 2

コンピテンス：世界の現状を理解し、説明する力

コンピテンシー：国際社会の現状と背景を理解し、地域社会における医療・保健・福祉の役割が説明できる。

DP 3

コンピテンス：論理的・批判的思考力

コンピテンシー：多岐にわたる知識や情報を基に、論理的な思考や批判的な思考ができる。

DP 4

コンピテンス：問題発見・解決力

コンピテンシー：自ら問題を発見し、その解決に必要な基本的歯科医学・医療の知識とスキルを修得できる。

DP 5

コンピテンス：挑戦力

コンピテンシー：新たな課題の解決策を見出すために、基礎・臨床・社会医学等の知識を基に積極的に挑戦し続けることができる。

DP 8

コンピテンス：省察力

コンピテンシー：プロフェッショナルとして生涯にわたり、振り返りを通じて基礎・臨床・社会歯科領域において自らを高める能力を身につけている。

CP 1

歯科医学と医療倫理の基礎的知識を修得し、社会人としての品格と医療人になるための自覚を養成する。

CP 2

国内外の医療・保健・福祉の現状を理解し、基礎・臨床・社会医学の知識を基に、国際社会で活躍でき

る基本的能力を育成する。

CP3

幅広い教養と歯科医療に必要な体系的な知識を基に、論理的・批判的思考力と総合的な判断能力を育成する。

CP4

歯科医学の基礎知識を体系的に修得し、臨床的な視点で問題を解決する力を養成する。

CP5

研究で明らかとなる新たな知見と研究マインドをもとに、歯科医学の課題に挑戦する学生を育成する。

CP8

各学年における学修で得た歯科医学の知識、技術および省察力をもとに、歯科医師として生涯にわたり学習する姿勢を育成する。

◆準備学習(予習・復習)

実習項目について教科書や参考書を読み、実習書の課題について理解を深めて出席すること。

◆準備学習時間

講義および実習に相当する時間分の予習復習を行うこと。

◆全学年を通しての関連教科

生化学（2年前期）

生理学（2年前期）

生理学・生化学実習（2年後期）

口腔生理学（2年後期）

口腔生化学（2年後期）

口腔生理学・口腔生化学実習（2年後期）

薬理学総論（3年後期）

◆予定表

12月13日（月）に薬理学と生理学の講義及び実習に関する第三回平常試験を行う。10月13日（月）9:00-9:50 薬理学総論時間内に実施予定の平常試験①（薬理の講義&実習）の解説は10月20日（木）9:00-9:50 薬理学総論時間内に行います。10月27日（木）9:00-9:50 薬理学総論時間内に実施予定の平常試験②（生化学分）の解説は11月8日（火）13:00-13:50 薬理学総論時間内に行います。

回	クラス	月日	時間	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1	AB	8.30	6	【遠隔】 薬理学総論（2） （教1）pp.5-7	・主作用と副作用が説明できる。 ・薬物の併用について協力作用と拮抗作用に分けて説明できる。 ・局所作用と全身作用の違いを説明できる。 ・直接作用と間接作用の違いを説明できる。	小林 真之	C-6-2) 薬理作用
2	AB	8.30	7	【遠隔】	・受容体という概念が生まれた歴史	小林 真之	C-6-2) 薬理

				薬力学各論 (1) 受容体を介する機 序① (教1) pp.31-33	を学び、近代医学の発展について説 明できる。 ・受容体理論を解離定数を用いて説 明できる。		作用
3	AB	8.30	8	【遠隔】 薬力学各論 (2) 受容体を介する機 序② (教1) pp.32-33	・用量-反応曲線について説明でき る。 ・リガンドの概念と種類について説 明できる。 ・薬の安全性の指標に関する用語を 説明できる。 ・Scatchard plot について理解す る。 ・余剰受容体について理解する。	小林 真之	C-6-2) 薬理 作用
4	AB	9.6	6	【遠隔】 薬力学各論 (5) イオンチャネル内 蔵型受容体② (教1) pp.36-37	・イオンチャネルの分類を理解す る。 ・電気化学的勾配について説明でき る。 ・ネルンストの式を理解する。	小林 真之	C-6-2) 薬理 作用
5	AB	9.6	7	【遠隔】 薬力学各論 (6) G 蛋白共役型受容 体① (教1) pp.34-35	・細胞の外部からの情報を中継し、 内部に伝える働きをする G 蛋白質 の種類について説明できる。	小林 真之	C-6-2) 薬理 作用
6	AB	9.6	8	【遠隔】 薬力学各論 (7) G 蛋白共役型受容 体② (教1) pp.34-35	・G 蛋白質の種類によるセカンド メッセンジャー系の違いを説明でき る。	小林 真之	C-6-2) 薬理 作用
7	AB	9.13	6	【遠隔】	・共輸送体について説明できる。	山本 清文	C-6-2) 薬理

				薬力学各論 (10) 輸送体 (トランス ポーター) (教1) pp.38-40	<ul style="list-style-type: none"> ・交換輸送体について説明できる。 ・神経伝達物質トランスポーターについて説明できる。 		作用
8	AB	9.13	7	【遠隔】 薬力学各論 (11) 薬物が作用する酵 素 (教1) pp.40-43	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物が作用する酵素について説明できる。 	山本 清文	C-6-2) 薬理 作用
9	AB	9.13	8	【遠隔】 薬力学各論 (12) 連用① (教1) pp.62-63	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物耐性について説明できる。 ・脱感作と過感受性について説明できる。 ・離脱症状について説明できる。 	小林 真之	C-6-2) 薬理 作用
10	AB	9.20	6	【遠隔】 薬物動態学各論 (1) 吸収 (教1) pp.47-49	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物の吸収過程における消化管粘 膜通過機序と、それに影響を与える 諸因子について説明できる。 ・薬物療法における薬物の生物学的 半減期, AUC およびバイオアベイ ラビリティーの重要性を説明でき る。 	小林 真之	C-6-2) 薬理 作用
11	AB	9.20	7	【遠隔】 薬物動態学各論 (2) 分布① (教1) pp.49-50	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物は固有の割合で血漿タンパ クと結合し、遊離型の薬物が薬効の 発揮に重要であることを説明でき る。 ・臓器により薬物の分布は異なり、 特に血液脳関門は薬物の脳内移行を 妨げることを説明できる。 	小林 真之	C-6-2) 薬理 作用
12	AB	9.20	8	【遠隔】 薬物動態学各論 (3) 分布② (教1) pp.50-51	<ul style="list-style-type: none"> ・コンパートモデルについて説明で きる。 	小林 真之	C-6-2) 薬理 作用
13	AB	9.27	6	【遠隔】 薬物動態学各論 (6) 排泄 (教1) pp.53-55	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物の排泄経路の種類とそのメカ ニズムについて説明できる。 	小林 真之	C-6-2) 薬理 作用

14	AB	9.27	7	【遠隔】 末梢神経作用薬 (1) (教1) pp.106-126	・アセチルコリンおよびアドレナリンを介した神経伝達の機構を説明できる。	山本 清文	C-6-2) 薬理作用
15	AB	9.27	8	【遠隔】 末梢神経作用薬 (2) (教1) pp.106-126	・アドレナリン作動性薬物について説明できる。 ・コリン作動性薬物について説明できる。	山本 清文	C-6-3) 薬物の適用と体内動態
16 ,1 7, 18	AB	10.11	6 ～ 8	【遠隔】 薬理学実習 (1) 【薬物動態】 (教3) pp.56-61	・シュミレーターを用い、薬物投与経路の違いによる薬物動態の基本的特徴について説明できる。 ・肝機能や腎機能の異常、薬物の連続投与が薬物動態に与える影響について説明できる。	薬理学	C-6-3)薬物の適用と体内動態
19 ,2 0, 21	AB	10.18	6 ～ 8	【遠隔】 薬理学実習 (2) 【腸管I】 (教3) p.26-31	・ラット摘出腸管の収縮を指標に、アセチルコリンの用量反応曲線を描き、アトロピン存在下での反応との比較から競合的拮抗作用の本質を説明できる。	薬理学	C-6-2) 薬理作用
22 ,2 3, 24	AB	10.25	6 ～ 8	【遠隔】 生化学実習 (2) 1. 細胞の情報伝達研究法 1) 細胞の情報伝達研究法の基本原理 (1) 抗原抗体反応 (2) ハイブリダイゼーション (3) 電気泳動 ①アガロースゲル電気泳動 ②SDS-	・抗原抗体反応について説明できる。 ・ハイブリダイゼーションのメカニズムについて説明できる。 ・電気泳動法の原理について説明できる。 ・抗原抗体反応を使用した実験法の原理、その応用について説明できる。 ・ハイブリダイゼーションを用いた実験法の原理、その応用について説明できる。 ・PCR法の原理、その応用について説明できる。 ・RT-PCR法の原理、その応用につ	津田 啓方	C-2-2)⑤遺伝子解析や遺伝子工学技術を説明できる。

			<p>PAGE</p> <p>2) 抗原抗体反応を用いた実験法とその応用</p> <p>(1) ウェスタンブロット</p> <p>(2) 免疫染色法</p> <p>(3) ELISA 法</p> <p>3) ハイブリダイゼーションを用いた実験法の概要</p> <p>(1) サザンブロット、ノーザンブロット</p> <p>(2) in-situ hybridization 法</p> <p>4) PCR 法とその応用</p> <p>5) RT-PCR 法とその応用</p> <p>6) 網羅的に遺伝子発現を調べる DNA マイクロアレイ法とその応用</p> <p>7) 次世代シーケンサーとその応用</p> <p>2. ウェスタンブロットを用いたヒストンアセチル化を調べる実験</p> <p>1) 細胞の刺激とサンプル処理</p> <p>2) SDS-PAGE</p> <p>3) 転写</p> <p>4) ブロッキング</p> <p>5) 抗体反応</p> <p>6) 洗浄</p> <p>7) 酵素反応による目的バンドの現像</p>	<p>いて説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ DNA マイクロアレイ法の原理とその応用について説明できる。 ・ 次世代シーケンサーの原理とその応用について説明できる。 ・ 実際のウェスタンブロット実験を動画で視聴し、同方法における各ステップの実験原理を詳しく説明できる。 ・ ウェスタンブロット実験の結果の見方および解釈の仕方について説明できる。 ・ ヒストンアセチル化、脱アセチル化とヒストンアセチル化によるエピジェネティックな転写調節について説明できる。 		
--	--	--	---	--	--	--

				8) 結果の見方 9) 結果の解釈 【遠隔 平常試験 (生化学①)】講義 当日の内容について講義終了後に遠隔にて平常試験を行う。 【対面 平常試験 (生化学②)】平常試験 (生化学②) は10月27日 (木) 9:00~9:50 に対面で行う (予定)。			
25, 26, 27	AB	11.1	6~8	【遠隔】 生理学実習 (2) ・内分泌・呼吸 ・運動・自律神経 ・循環・血液	・身体の恒常性維持にとって重要な全身機能を説明できる。	担当教員備考欄参照	C-2-4) ②ホルモン、成長因子、サイトカイン等の受容体を介する細胞情報伝達機構を説明できる
28	AB	11.8	6	【遠隔】 内分泌および代謝性疾患治療薬 (1) (教1) pp.207-219 pp.327-338	・糖尿病の原因, 合併症について説明できる。 ・インスリン依存性と非依存性の糖尿病治療薬について, 作用機序の違いを説明できる。 ・糖尿病治療薬が関わる薬物相互作用について説明できる。	山本 清文	C-6-2) 薬理作用
29	AB	11.8	7	【遠隔】 内分泌および代謝性疾患治療薬 (2) (教1) pp.207-219 pp.327-338	・高尿酸血症の成因とその有害性について説明できる。 ・治療薬のタイプとその作用機序について説明できる。	山本 清文	C-6-2) 薬理作用

30	AB	11.8	8	【遠隔】 内分泌および代謝 性疾患治療薬 (3) (教1) pp.207- 219 pp.327-338	・骨粗鬆症の定義とその成因について説明できる。 ・予防法、治療法と治療薬について説明できる。	山本 清文	C-6-2) 薬理作用
31	AB	11.15	6	【遠隔】 オータコイド (2) (教1) pp.20-24	・炎症や疼痛の発現に重要な役割を果たすエイコサノイドの生合成過程および生理的作用機構について説明できる。	大橋 一徳	C-6-2) 薬理作用
32	AB	11.15	7	【遠隔】 ホルモン (1) (教1) pp.25-30	・内分泌系の制御機構について説明できる。	大橋 一徳	C-6-2) 薬理作用
33	AB	11.15	8	【遠隔】 ホルモン (2) (教1) pp.25-30	・内分泌系の器官に作用する薬物について説明できる。	大橋 一徳	C-6-2)薬理作用
34	AB	11.22	6	【遠隔】 中枢神経作用薬 (2) 統合失調症治療薬 (教1) pp.152- 156	・統合失調症の概念とその治療に用いられる薬物について説明できる。	大橋 一徳	C-6-2) 薬理作用
35	AB	11.22	7	【遠隔】 中枢神経作用薬 (3) 抗うつ薬・抗躁薬 (教1) pp.156- 159	・抗うつ薬に分類される薬物とその作用機序について説明できる。 ・抗躁薬に分類される薬物とその作用機序について説明できる。	大橋 一徳	C-6-2) 薬理作用
36	AB	11.22	8	【遠隔】 中枢神経作用薬 (4) 抗不安薬・催眠薬 (教1) pp.143- 150	・抗不安薬に分類される薬物と、その作用機序について説明できる。 ・催眠薬に分類される薬物と、その作用機序について説明できる。	大橋 一徳	C-6-2) 薬理作用
37	AB	11.29	6	【遠隔】	・口腔の恒常性を維持するために重	担当教員備	E-2-1) ⑦下顎

38			～8	生理学実習 (3) ・咀嚼・嚥下 ・発声・言語 ・唾液・味覚	要な口腔機能について説明できる。	考欄参照	の随意運動と反射を説明できる。
39	AB	11.29	8	【遠隔】 医薬品の開発 (教1) pp.85-89	・ヘルシンキ宣言、インフォームドコンセントの意味について説明できる。 ・医薬品の開発手順と、それに関連した法律について説明できる。 ・臨床試験第I～IV相について説明できる。	中谷 有香	C-6-1) 薬物と医薬品
40	AB	12.6	6	【遠隔】 血液系疾患薬 (2) 止血薬 (教1) pp.175-188	・全身止血薬について説明できる。 ・局所止血薬について説明できる。	小林 真之	C-6-2) 薬理作用
41	AB	12.6	7	【遠隔】 血液系疾患薬 (3) 抗血小板薬 (教1) pp.175-188	・血小板凝集機構に基づいた抗血小板薬について説明できる。	小林 真之	C-6-2) 薬理作用
42	AB	12.6	8	【遠隔】 血液系疾患薬 (4) 抗凝固薬 (教1) pp.175-188	・血液凝固カスケードに基づいた抗凝固薬および止血薬について説明できる。 ・貧血治療薬について説明できる。	小林 真之	C-6-2) 薬理作用
44	AB	12.13	6～8	平常試験③ 薬理(講義&実習) &生理学の解説	・薬理学総論ならびに薬理学実習I(薬理学および生理学講座担当範囲)に関してマークシート方式および筆答方式の試験により理解度を確認する。	薬理学 生理学	C-3-4)身体を構成する組織 C-6-2) 薬理作用 C-6-1)薬物と医薬品

担当グループ一覧表

グループ名	教員コード	教員名
薬理学	5000003	越川 憲明
	1377	小林 真之
	2130	山本 清文
	2957	中谷 有香
	3462	大橋 一徳
生理学	1052	坪井 美行
	2006	篠田 雅路
	3269	林 良憲
	3461	人見 涼露
生化学	1538	津田 啓方

